

<p>6. 我々は一般人はこの問題にどう対処したらよいかを考える。</p>	<p>(1) 本質的には生物(特にヒトの場合)の基本的性質まで人為的に変えてしまってもよいかという問題がでてくる。 (2) こうした問題について倫理・道徳の立場からも考えてみる必要がある。</p>
---------------------------------------	--

(9) “コトバ” について

白 井 宏

〔題 目〕コトバについて  
〔指導者氏名〕白 井 宏  
〔日 時〕 月 日  
〔本時の位置〕 10時間中の9時間目  
〔本時の目標〕

「人間とは何か?」という問は, “人間をして人間たらしめているものは何か?” という問と, ほぼ同義である。そして, その問に対して, さまざまな観点からのさまざまな答が想起されるが, 「言語の発明と使用」は, 何人も逸することができないだろう。

誕生直後は, 他の高等哺乳類と同程度の精神機能と, それらよりもはるかに劣る身体機能しか持たない人間が, 長い要保護期間において, 驚異的な発達をとげる。そこで果す「言語」の役割は, 人間が意識しているよりもはるかに大きいと言える。

人間は「私は…」ということばを発することによって, 自己との関係における全世界を把握し, 「きのう……した。」ということばを使用することによって, 過去から未来へという時間を自分の中に取り入れる。人間のいわば無限の可能性が, ことばを契機として約束される。

本時は, ことばの持っている現実的機能を整理することから始めて, 人間のことばと他の動物のことばとの比較をし, サルからヒトへという過程で, ことばの果たした大きな役割を理解させたい。そして最後に, 恐らく他の何物にもまさる「言語の発明」に気付かせたい。美しく正しいことばの使用を心がけることが, 真に豊かな生活を確立するための必須条件であることを信じつつ。

過程	学 習 内 容	学 習 指 導	指 導 上 の 留 意 点
導入 (5分)	前回までの授業の復習	特に第2回「サルからヒトへ」の最後のところで, 「言語」というものが果たした“文化の創造と定着”という重要な役割を, 想起させる。	指名により, 各回のポイントを, 口頭発表させる。
展開 (40分)	<p>1. 言語のもつ機能</p> <p>2. 動物の言語と人間の言語の違い</p> <p>ア, イ 動物の言語</p> <p>ウ 動物の言語と人間の言語の違い</p>	<p>1. ㉠伝達—情報・思想・感情を, 他のヒトに伝える。(外言語—話す・聞く・書く・読む)</p> <p>㉡思考—伝達の内容に構造や形式を与える。(内言語—考える・反省する)</p> <p>㉢保存—伝達の内容・思考の内容を保存する。(記憶・記録)</p> <p>2. ア 鳥類・哺乳類の鳴き声の機能—親愛の情の表現, 威かくその他。</p> <p>イ ミツバチのダンス言葉の機能—蜜のある花の種類と距離と方向とを, 仲間知らせる。</p> <p>ウ これらと人間の言語との違い</p> <p>①分節化している一文から個々の語を切り離し, 別の文を作ることができる。</p> <p>②抽象的表現ができる—存在だけでなく, 非存在(つまり“嘘”)を表現することができる。</p>	<p>「ことば」はどんなはたらきをしているか? という問を出し, “話す” “聞く” …… “考える” “覚える” ……と答えさせる。</p> <p>自由に考えさせて, いろいろと気付かせる。</p>

“ゆとり”の時間を利用した総合学習の展開

	<p>エ 人間の言語獲得</p> <p>3. サルからヒトへー言語の役割</p> <p>ア 人間化の瞬間</p> <p>イ 本能から学習へ</p> <p>ウ 記号の記号</p> <p>オ 反省と予測</p>	<p>エ 人間の言語獲得を保障するもの</p> <p>①大きな脳ー人間の脳は、類人猿の脳の約4倍のニューロンを持っている。それが、複雑微妙な音を聞き分ける能力や、発音のための筋肉をコントロールする能力を保障している。</p> <p>②社会ー人間は高い模倣能力を持っているが、それは、豊かな言語環境社会の存在を前提にして発揮される。</p> <p>3. ア 言語習得を可能にする脳の発達は、生後数年、特に生後1年間のそれは驚異的である。そして、7才くらいで完全な構造に達する。</p> <p>イ 脳の発達と、言語の習得により、人間では相対的に本能が抑えられ、知能の発達が促進される。</p> <p>ウ 人間の言語は、ほとんどすべて、その表す事物とは直接の関連が無い。そこから緊密な体系化と、無限の発展への可能性が生まれる。</p> <p>オ 言語の機能を生かして、人間は、経験を蓄積し、試行錯誤を少なくすることができる。</p>	<p>＊マルクスのことば 「いちばん下手な建築師がいちばん巧みなミツバチと違うところは、建築師は密蝨で巣房を作る前に頭の中でそれを作るということである。」</p>
<p>結論 (5分)</p>	<p>言語という偉大な発明</p>	<p>人間は、長い間にわたって、いろいろな発明発見を重ねてきた。それらに比べて「ことば」は格段にすばらしい発明だということを考えさせる。</p>	

(10) “生きている”とは何か

ーチャップリン『街の灯』を見ながらー

川 田 基 生  
山 田 雄 一

〔指導者〕 川田基生

〔日時〕

〔本時の位置〕総合学習グループでは「人間とは何か」について、植物、動物、ロボットなどとの比較をしながら考えてきた。人と動物はどこがちがうのであろうか。一般に、われわれは、人というのは心をもっており、下等動物、無生物は心をもたないと考え。しかし、そう考える根拠は何であろうか。「人はものを考えていることの証拠となる行動をする」と答えるなら、「ロボットにも心がある」となりはしないか。本時においては、この心の問題に焦点をあてて、人間

が生きているってどんなことか考えてみたい。病床にあった幼いチャップリンに、貧しく医者と呼ばなかった母が、「母は私の胸に、生まれてはじめての暖かい灯をともしてくれた」という話の内容紹介から授業をはじめ。9回にわたる真剣なとりくみの最後には、チャップリンの映画を見ながらの楽しい一時間を用意できないだろうか。

〔本時の目標〕人間が“生きている”ということの弁証法的性格を、チャップリンの母の生きている姿から考えてみる。逆説に備えた人間存在というものを考えさせる。

過程	学 習 内 容	学 習 指 導	指 導 上 の 留 意 点
<p>導入 (10分)</p>	<p>・ユーモアのある短い場面を2つ見せる。内容的には相矛盾する2つの行動、生徒はただ笑うだけだが伏線的に見せる。</p> <p>・病気をなおすにはどうすればよいか。前時の授業の印象的な、ひとことについて問いかける。</p>	<p>「街の灯」(自主編成VTR)2場面を、3分程度見る。</p> <p>前回の復習をする。</p>	<p>暗くして、早く集中できるようにさせる。</p> <p>前回の核心部分に焦点をあわせ、前回全体を想起させる。</p>